

全国在宅療養支援診療所連絡会 第1回全国大会 プログラム別詳細

タイトル	患者と地域全体を診る在宅医療 (日本プライマリ・ケア学会合同企画)
日時	平成26年3月22日(土) 16:00~18:00
会場	サピアホール(501)
座長	草場鉄周 (北海道家庭医療学センター・日本プライマリ・ケア連合学会副理事長) 石垣泰則 (城西神経内科クリニック・連絡会副会長)
演者	鈴木央 (鈴木内科医院・連絡会副会長) 中川貴史 (北海道家庭医療学センター) 大原昌樹 (陶病院) 細田稔 (細田クリニック・連絡会会員)
企画の趣旨・概要	<p>在宅医療は患者とその取り巻く環境そのもの全体を診て見る医療である。この考え方は、プライマリ・ケアあるいは家庭医療、総合診療という考え方に近い。本シンポジウムでは日本プライマリ・ケア連合学会と合同で、患者全体を診る医療、そして家族全体を見る医療、地域全体を診る視点について会場と気付きを共にしていきたい。</p> <p>外来診療を行いながら在宅医療を行うことは非効率的との意見もある。しかし地域の中では、極めて有効な手法である。プライマリ・ケアの重要な要素である「近接性」、「継続性」、「包括性」、「協調性」、「責任性」を果たすことができるのである。この外来診療と在宅医療の関係性について、東京都都市部で在宅医療を行う鈴木(筆者)が指摘する。</p> <p>また、地方、特に過疎地域と呼ばれる地域では都市部と全く状況が異なる。このような地域での在宅医療は、限られた医療資源の中で、外来医療、そして入院医療とも並行して行われることが多い。そしてこれらの医療を少数のスタッフができるだけ広い領域をカバーしながら行う必要がある。現状はどうなっているのか、どこまでできるのか、ソロプラクティスなのかグループ診療なのか、グループ診療であるなら何人程度の医師が必要なのか、その医師確保はどうするのか、教育体制はどうなっているのか、北海道寿都町で有床診療所長として働く中川医師に話を聞く。</p> <p>地域全体に目を向けている医師もいる。綾川町国民健康保険陶病院で院長を務める大原昌樹医師は地域の中での医療と介護の融合を目指し「シームレスケア」を提唱、実践している。地域包括ケア推進には、それぞれの地域性が極めて重要であり、地域ごとの工夫が施されている。この香川県での取り組みについて話を聞く。参加者それぞれの地域での活動のヒントになれば幸いである。</p> <p>最後に医師会の理事として、地域の医療に携わってきた医師を紹介する。前日本プライマリ・ケア連合学会理事でもある細田稔医師である。地域医師会の理事を通して、さまざまな地域医療の改革に取り組み様々な成果を生んでいる。もちろん診療所医師として在宅医療、外来診療に取り組みながらである。我々診療所医師にとって、診療所だけではなく地域全体を診て、さまざまなステークホルダーと話し合いながらよりよくしていく視点は極めて重要であると考えられる。細田医師に医師会や行政との関わり、一人の診療所医としての立ち位置について話を聞く。</p> <p>地域医療には様々な課題がある。それは診療所あるいは病院の中だけでは解決できないことがほとんどある。本日の話から、参加者が医療者の立場でどのように地域に貢献するか考えるヒントになれば幸いである。</p>

(敬称略)